

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部 土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 窪田彰 (主幹兼治水係長 糟谷昌俊)	内線	4408 (4437)
------	--------------------	---------------------	------------------------------	----	----------------

事業種目	河川事業	事業名	事業区間	総事業費	14 億円
		市川水系 振古川 総合流域防災事業	市川町甘地～谷	内用地補償費	2.9 億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
神崎郡市川町甘地～谷			H19	H19	H28
事業目的			事業内容		
当該地域は過去から浸水被害に見舞われているため、土塁を築き自己防衛に努めているが、昭和40年、平成9年に床上浸水が発生している。このため、河床掘削、河道拡幅により当該地域の浸水被害を防止し、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。			計画流量 70m ³ /s 実施内容 L = 2000.0m 護岸工L=3,700m、掘削V=16,000m ³ 、 井堰改築1基、道路橋7橋 〔負担割合 国:5/10 , 県: 5/10〕		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・現況の流下断面が計画断面の半分程度しかなく浸水被害が多発している。 ・流下能力が低い人家連担区間では住民自ら土塁を築き、出水時にはタタミ（板）を挿入し自己防衛に努めてきた。 ・中規模な洪水でも道路が冠水し、孤立地区が発生する状況である。 ・近年、地区住民の高齢化が進み迅速な水防活動が困難な状況になっている。 				
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・費用便益比 B / C = 1 . 6 ・平成18年7月の豪雨において、堤防天端まで水位が上昇し水防活動を行った。出水時には水防活動をする必要があり、特に今年の出水後は改修に対する地元要望も強く事業に対する協力体制が整ったため、すみやかに事業着手が可能である。 				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> ・現況の水深、水路幅を踏まえた低々水路を設けることにより、現在の河川環境の保全に努める。 ・落差工については緩傾斜落差等により魚類の遡上に配慮する。 				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> ・市川水系では姫路市域で本川の改修事業が進められている外、振古川より下流の支川も概ね整備が完了している。 ・平成18年7月豪雨では振古川は堤防天端まで水位が上昇し、更に降雨が続けば大規模な浸水被害が発生していたが、水防活動により浸水被害を未然に防止した。しかし、住民が安全で安心して生活できる環境を確保するには、早期に河川改修する必要がある。 				